

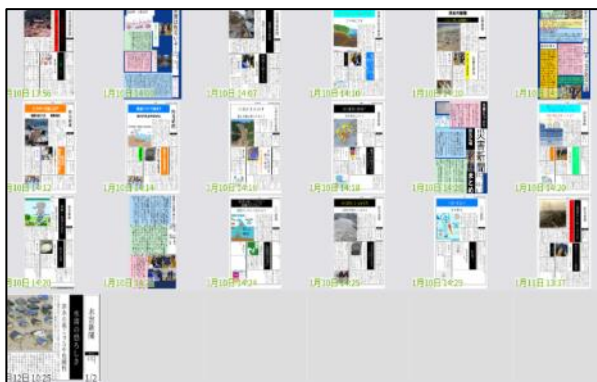
「クミハン」を使って調べ学習のまとめをしよう

【内容】調べ学習のまとめ

【使用アプリ】eスタ（クミハン）

【事例紹介】

GIGA スクール構想がスタートし数年が経ち、児童も教員も ChromeBook や様々なアプリの活用にだいぶ慣れてきた。学習の成果をまとめる過程も「模造紙やワークシート」から「デジタル」に移行が進んできている。今回は「クミハン」について紹介する。愛媛新聞 for スタディ（通称 e スタ）の中に「クミハン」という機能がある。テンプレートが用意されているのが特徴で【見出し】や【あとがき】などといった新聞の構成を学びながら学習に成果をまとめることができるのが魅力的な点である。アップデートにより、作成途中のデータを個々の端末に保存できるようになったので使い勝手もアップしている。完成したものはスクリーンショットや PDF 保存で書き出し、ロイロノート等で一括管理することで評価にもつなげられる。



ロイロノートで提出した様子。テンプレートがあるので教師の最初の準備の手間が減るので業務改善につながる。



最終的に児童自身がまとめる形式を選択した。1学期に全員がクミハンを経験していたので、ロイロでクミハンをまねた子もいた。

【終わりに】

6年生ではまとめ方を児童に選ばせる形式もとって見た。やはりロイロノートが多かったが、Google スライドや紙媒体を選んだ児童もいた。自分の選んだ方法でやることで児童の意欲は高まった。端末の日常使いが当たり前になってきた一方で、児童の中にはアナログを好む子もいるので、児童が選べる環境・児童が選べる教員のゆとりや心構えも大切だと最近感じている。また、使ったことのないアプリを使うのは不安も大きいですが、やってみることで得られるものは多い。今年度は、e スタは有償なので全ての内容が使える。記事を読むだけでなく、調べ学習やニュース学習帳など、活用の幅も広げたい。

☆教育委員会指導主事より☆

6年生は自分でまとめ方を選択させたとありますが、ここが重要なポイントであると感じます。「デジタル」は「アナログ」を置き換えるものではなく、「アナログ」「デジタル」それぞれに違った特徴があります。それらを踏まえ、自分の表現の目的に最適だと思う手法を自分で選択することが自らの学びを調整することにつながるのではないのでしょうか。そのためには両方のよさを知ることが必要です。両方を経験させたいので表現方法の選択を子どもに委ねてみることも検討してみてください。